平成２３年度第１回文学館協議会議事録

１　日時　　平成２３年１０月２６日　午後１時３０分から
２　場所　　文学館研修室
３　出席者　○協議会委員
・ 数野強・上名をさみ・濃野初美・向山文人・古屋未知男・山影泰輔
・ 渡辺久壽・上野美穂子・清水章子
○ 学術文化財課：高橋課長・古屋主査
○ 文学館：近藤館長・高山副館長・井上学芸幹・古屋総務課長
文学館担当４名・指定管理者２名
４　正副会長の選出　会長：数野強氏、副会長：乙黒幸江氏
５　議事
（１）平成２３年度事業等について
（２）その他
６　議事の概要
Ａ委員：平成２３年度事業について事務局から説明があったがご意見・ご質問等あったらよろしくお願いしたい。
Ｂ委員：常設展の解説ボランティアはどのようなことをするのか。
事務局：平成２２年度から、解説ボランティアを育成し、来館者の多い日曜日に展示室入口ロビーで、展示室の概略を説明（15 分程度）している。展示室内での解説は、他の観覧者の観覧の妨げになるので行わない。来館者のニーズに応えた解説を行っている。
Ｃ委員：解説は日曜日だけなのか。解説をしてもらえると感銘が深い。随時してもらえないか。
事務局：解説は御希望があれば、学芸員が可能な限り対応している。協力員は決まった曜日・時間での解説となるが、予め連絡をもらった時は、対応している。
解説者の人数が増えてくれば、平日の対応も可能となる。
Ａ委員：「白磁の人」の映画化も進んでいるが、関連の展示などは考えているか。
事務局：美術館での展示に併せて、閲覧室での資料紹介を計画している。展示室でも著作を展示する予定である。
Ｄ委員：ジュニアインターンシップを受け入れているとのことだが、例えば郡内の生徒は来館は難しいので、学校に来て職業講話などを行ってもらえないか。
事務局：「講師派遣事業」の中で、学芸員の仕事について講演するなど、既に実績あり、依頼があれば対応できる。
Ａ委員：子ども達にも、職場体験・研修は商工業系だけでなく、文化施設で是非行ってほ

しい。

Ｅ委員：やまなし文学賞が毎年選定されているが、その後の活躍がない。山梨県出身の作者も少ない。受賞作が刊行されているが薄く、或る程度厚くないと書店で手に取らない。もう少し枚数を増やせないか。或いは佳作も載せて出版してはどうか。

事務局：やまなし文学賞小説部門は、かつては２００枚だったが、選考委員の「簡潔な作品にするべきだ」との意見により８０～１００枚となったという経緯ある。

事務局：２００枚という分量はかなり筆力がないと難しい。文学賞は２０回となり、今後どうするかも含めて山日(実行委員で)とも検討した。

Ｆ委員：東日本大震災後の入館者が昨年度比６０％というのは社会情勢といえども、落ち込みすぎではないか。入館者を増やす努力、工夫をするべきである。数値目標を設け危機感を持ってほしい。

美術館でこれから開催する浅川展については、ＵＴＹで番組を放映し県民の目に留まるようにする。マスコミを使うことも一つの方法である。我々も協力は惜しまない。

事務局：館としても、展覧会ごとに観覧者の目標を立て、数値は毎日チェックし、対策を検討している。広報のために、既存の周知方法以外に、様々な取組を行っているところである。広告費がない中で費用を捻出している。

事務局：美術館と同一の敷地にあるということで、両館を見ていただけるよう努力はしているが、「観る」（美術館）と「読む」（文学館）の違いがあると思う。

また、昨年との比較でいうと、夏休みに美術館と合同で開催した「くじら雲展」は、１０，４９０名余が観覧しており通常の観覧者数と比較すると非常に大きい数字である。家族で来ていただいた方に常設展示も観ていただいてた。来館していただき、良さを知っていただくにはどうすればよいか、大きな取り組みとして力を注いでいるところである。

Ｅ委員：美術館に来た人に文学館にも来てほしいという意図はわかるが、庭園内の深沢七郎展の案内は工事現場のような感じがして私はよくないと感じている。薔薇園の花は少なくなっているし、生垣も枯れている。庭もきれいにして、文学の香り高い環境にしてほしい。

事務局：誘導するための一つの取り組みとして、案内を設置しているところである。工事現場のようなというのは委員のご意見として伺っておく。植栽については、費用のこともあるが出来ることはしていきたい。

Ａ委員：教育普及として深沢七郎の作品は子どもには難しいのではないか。

事務局：まず郷土の作家であることを知ってもらいたいと思い、パネル（小・中学校向け、高校向け）を作成し、学校に貸出している。

Ｂ委員：深沢七郎は、「くりょー」とか「いかざー」というような甲州弁を多用しているの

で、方言と深沢文学をそういう切り口で、子どもたちにアピールできないか。

事務局：貴重なご意見をいただいた。子どもたちへの説明、資料作りに活かしたい。

Ｆ委員：展示を外に貸し出すことはできないか。セキュリティーの問題があると思うが、例えばホテルのロビーで展示するなど、多くの人の眼に触れる場所での展示をして、少しでも目に触れる機会を増やしたらどうか。

常設展の展示替えを４回しているとのことが、全く知らなかった。もっと広報をしたらどうか。

チラシの扱い、渡し方など、広報の工夫はどのようにしているのか。

事務局：チラシを送付するだけではなく、訪問して直接手渡し、こちらの意図を伝えるようにしている。

美術館の来館者の６５歳以上の人に文学館の無料観覧券を渡すことも行っている。

事務局：例えば深沢七郎展の関連であれば、パネルを日川高校に貸し出している。貸出は現在学校のみだが、諸施設も含めて検討したいが著作権の問題もある。

Ｄ委員：移動文学館のような取組は可能か。何らかの繋がりができると足を運ぶようになる。

事務局：先にお話ししたパネルの貸出は、まさに移動文学館のような取り組みとして行っている。こういう事がきっかけになって、将来文学館に来ていただければと考えている。

Ｇ委員：他県から来て３０年余りになるが、山梨県になかなかなじめない。山梨出身、ゆかりということだが、「脱山梨」はできないか。

事務局：文学館は、山梨県出身・ゆかりの文学者を取り上げることが多いが、「山梨」「山梨」ばかりではなく、文学史上著名な文学者の展覧会なども開催してきている。

Ａ委員：俳句の世界では、「西の松山」に対し、「東の山梨」だと言われている。松山では、「俳句甲子園」などの事業があるが、俳句関連の事業の開催はあるのか。

事務局：学校での学芸員による俳句の講座や俳句教室なども行っている。

Ａ委員：文学館主催の俳句大会の開催などは行っているのか。

事務局：企画展関連事業の中で、俳句雑誌「白露」主宰である廣瀬直人氏の講演会や、大人と子どもを対象にした俳句を募集し、優秀な作品を表象した。

以上